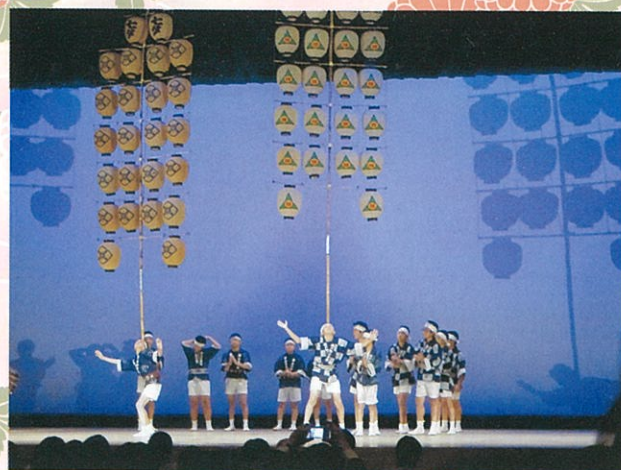


日本女性会議2016秋田

「みつめてみとめてあなたと私」
～多様性（ダイバーシティ）とは～

平成28年10月28日（金）～30日（日）

会場 秋田県民会館 ほか



佐藤 幸枝

多様性をテーマに開催された「日本女性会議秋田」。市内の小学生による竿燈演技で始まったアトラクションは、20kgもある竿を自在に扱い見事なバランスと力技は圧感でした。

分科会は「ともに生きる喜びをはぐくむ高齢社会」に参加しました。秋田は日本一高齢化率の高い県で、行政や民間での取組が紹介されました。秋田銀行では高齢化を逆に考え、長く生き活きと暮らしている方が沢山いる県になれるチャンスと捉え、『あきぎん長生き学校』を開設したそうです。さまざまな思いや考え方の違いを尊重して受け入れ、誰もが先生、誰もが生徒、学びたいという気持ちが長活きの秘訣、ピンチをチャンスに変えるモチベーションの高い県と感じたシンポジウムでした。



佐藤さん（左）と福田さん（右）

福田 純子

1日目は、はじめに内閣府男女共同参画局長の武川恵子さんの基調報告が行われました。我が国最大の潜在力である「女性の力」の発揮は、すべての人にとって暮らしやすい社会づくりにつながるということ、そして気遣い合う社会を作っていくことが大切だという報告がありました。次に、メイクアップアーティストの藤原美智子さんにより「違いこそが個性・自信・魅力を作る」と題した記念講演がありました。外見から内面を変えることもできるし、生き生きしてるから美しいとの話を伺いました。

2日目は、分科会があり、私は「女性の活躍を進めるために必要なこと、困難なこと」に参加しました。多様性をもって自分も相手も大切にするコミュニケーションが大事であるという事が、とても印象に残りました。

編集後記

広報誌「かがやき」の発行にあたり、原稿をお寄せくださいました皆様に心よりお礼申し上げます。おかげさまで第17号の発行を迎えることができました。

町民の皆様には当団体の活動についてご理解をいただくとともに忌憚のないご意見をいただければ幸いです。

編集委員

梅澤 知江	荷見 イツ子
菊地 富士子	廣木 初江
小林 恭子	増渕 さつき
小林 久子	

印刷 株式会社 井上総合印刷
電話 028-661-4723

かがやき

活動紹介

加入団体



農村生活研究グループ
町民祭サツマ芋スティック販売 etc.



主な内容

- 総会
- 一周年行事
- 町民のつどい
- ジェンダー川柳コンクール
- 視察
- 講演
- 日本女性会議

芳賀町において、小中学生対象にジェンダー川柳の募集を始めてから5年目となりました。年々子ども達の作品をみると、少しずつではありますが男女共同参画について理解されてきていることがよくわかり、これらの子ども達が将来を担っていくと思うとうれしい限りです。

子ども達が幸せに暮らせるように、芳賀町がだれにとっても暮らしやすい町になるように、性別にとらわれず、社会のいろいろな分野に女性も男性も参画し、ともに協力し、ともに責任を担いながら、地域と各団体協働していきましょう。

副会長



会長
小山 佳子

男女共同参画の多様性に思う

ここ最近、男女共同参画という言葉も聞きなれてきた感がありますが、どうしても「女性のための活動」と思われがちなのではないのでしょうか。男女共同参画社会とは、自分の生き方を自分で選択できる社会にしていきたいということ。女性も男性も当事者として捉えていただき、多種多様な生き方を受け入れられるような社会になっていければいいなと思っています。

女性団体連絡協議会に加盟してくださっている団体や、社会的活動を積極的に行っているボランティア団体の皆さんはすでに多様性を実践している皆さんです。多彩な顔を持つ方が男女とわずたくさんいらして、いつも刺激をいただいています。常に新しい人脈や知識、経験を活かし、新しい社会的意味や価値を見出していこうという姿勢はお手本です。

タウン誌の記事に「いろいろなリキュールを混ぜて作るオリジナルのカクテルには様々な場面に合わせたものがあり、楽しみも可能性も無限に広がる」とありました。いろんな個性が混ざり合っているおいしいカクテルのような社会が出来る事を願っています。

平成28年度 芳賀町女性団体連絡協議会総会

平成28年度芳賀町女性団体連絡協議会役員

役職	氏名	団体名
会長	小山 佳子	芳賀つばさの会
副会長	福田 純子	芳賀町ひばりの会
書記	増渕さつき	芳賀くらしの会
書記	高津 健司	事務局
会計	石下 篤子	J A はが野芳賀地区女性会
理事	佐藤 幸枝	芳賀町ひばりの会
理 事	菊地富士子	J A はが野芳賀地区女性会
理 事	荒井美代子	J A はが野芳賀地区女性会
理 事	荷見イツ子	芳賀町ひばりの会
理 事	関 優子	芳賀くらしの会
理 事	小林 恭子	農村生活研究グループ
理 事	梅澤 知江	農村生活研究グループ
理 事	山崎ひろ子	芳賀つばさの会
監査監事	廣木 初江	芳賀くらしの会
理 事	渡部 洋子	農村生活研究グループ



5月17日(火)町民会館において、見目町長、増渕議長、森教育委員長のご臨席をいただき総会が開催されました。

始めに「芳賀町民の歌」を斉唱し、「芳賀町男女共同参画都市宣言文」を群読しました。

「つばさの会」の磯孝さんを議長に、円滑な議事進行で無事総会が終了しました。

その後、「とちぎ次世代人材づくり2015研修」参加者の岩松みち子さんから研修報告がありました。

共に活動しませんか

女性団体連絡協議会では加入団体を募集しています。また、それぞれの団体では会員を募っています。他の団体と交流する事により見聞を広げるばかりでなく、語り合える仲間に出会えるはず。町や県の行事や講演会に参加し、社会の動きを感じる事もあります。

一緒にかがやきませんか。

問い合わせ 芳賀町生涯学習センター TEL 028-677-0306

芳賀町男女共同参画都市宣言

一周年記念事業

平成28年3月24日

芳賀町は平成27年3月14日に男女共同参画社会の更なる推進を目指して、県内市町5番目となる「男女共同参画都市」を高らかに宣言しました。

その歩みを一歩ずつ進めるために、「寒緋桜」を植樹し「何を怖れる〜フェミニズムを生きた女たち」の上映会を行いました。

「ユキエ」「折り梅」「レオニー」の
松 井 久 子 監 督 作 品

何を怖れる
フェミニズムを生きた女たち

70年代初頭からマンリフが始まった頃、彼女たちはまだ20代、30代だった。その頃の彼女たちは、社会が「NO」と叫んでいた。その後の半世紀、女たちは自己と社会を肯定すべく、ついに意思をもって生きてきた。男社会から生まれた。同性たちの偏見や差別の目に晒されても、すすんで自らを「フェミニスト」と名乗り、目の前の壁と闘いながら、ついに女たちと共闘し、女たちとつながり、老年期を迎えた今もなお、みずみずしく女であることを愛している。そんな彼女たちは、時代に何を遺そうとしてきたか？ 次の世代に何を伝えようとしているか？ 「ユキエ」「折り梅」「レオニー」の松井久子監督が、フェミニストたちの宣言でつづる群像ドキュメンタリー映画。

松井久子 Hisako Matsui 監督・プロデューサー

関わった、生きた、老いた……
彼女たちの「リブ」は、自分を生きること。

芳賀町男女共同参画都市宣言一周年記念事業

平成28年3月24日(木)午後1時30分開演
芳賀町民会館研修室
芳賀町女性団体連絡協議会・芳賀つばさの会・芳賀町



「何を怖れる」上映会アンケートより

- ・今回2回目の映画ですが、理解が難しいと感じた。
- ・先輩方の生きざまを再確認できてよかった。
- ・今では当たり前になっていることも先駆者の努力で成り立っていることを考えさせられた。
- ・出演者は昭和1桁か10年代生まれの女性たちで、当時は女性の地位が低く、あらゆる面で不平等であって、辛い思いもしたと思うが、リブ運動を通して、女性の地位の向上に努めたことは本当に勇気がいることで大変だったと思う。
- ・とても心を動かされるものだった。
- ・何度見てもいいと思った。
- ・少し、難しかった。
- ・男女平等である現状が出来上がるまでには、女性はいろいろな苦難に満ちていたのだと思う。男女差別が無くなるには、まだまだ時間がかかると思う。様々な女性たちの生き方を垣間見て考えさせられた。

平成28年度 **かがやく町民のつどい**
(芳賀町女性団体連絡協議会研修会) 1月28日(土)

講演

『男女共同参画の視点から見たまちづくり part.2』
～人は独りでは生きられない～

昨年度、是非Part.2をとご好評いただいた茨城大学教育学部特任准教授 長谷川 幸介氏をお招きして、超高齢化に伴う「無縁社会」にいかに関わり合っていくか、男女共同参画社会の推進やこれからの地域づくりのために、地域や家庭において何をすべきか講演していただきました。

J A女性会 関口 和枝

人は独りでは生きられない。社会という名の『幸せ装置』がいろいろな障がいを克服する。と先生の講演が始まる。戦後の経済成長と共に核家族化が進み、社会の4つの縁(えに)血縁、地縁、友縁、職縁の結びつきが薄れ社会問題がおきている。先日、豊かなはずの日本の子供たちの6人に1人が貧困と報道された。

女性が妊娠すると安定のエストロゲンが分泌されるが出産と同時に減少し不安に陥ると言う。核家族のため、助けてほしい時に1人のかえこんでしまう。昔は大家族の中で地域の中で育てられた。本当に胸が痛い。ただ寝る前の10分間夫婦で、たあいのない話をするときずなのオキシトシンが分泌されるそうだ。背中をなでる、これも効果があり、私たち夫婦にも必要だ。

また男性と女性の右脳と左脳の働きが違う。女性は両方使えるので多面で上手につながる事ができるが、左脳(論理)のみの男性は地域にさえつながる事が苦手。なるほどだから夫にいろいろ要求しても無理な訳だ。男性もひとりぼっちにならないために地域とつながる努力が大切。男女共同参画が求められている今、その視点は社会の綻びを温かく繕うまなざしを持つこと。特につながる事が上手な女性はその特権を生かし、女性団体それぞれの分野での活躍を期待したい。



社会教育委員兼生涯学習センター運営審議委員
岡田由美子

社会教育委員兼生涯学習センター運営審議委員としての自分に通知された案内文書に「今回の研修会は芳賀町における今後の生涯学習やまちづくりを考えていく上で大変有意義な機会」とあり、今後、自分を活かしていく上で必要な講演会であると考え、足を向けさせて頂きました。

講演のサブタイトル「人は独りでは生きられない」とは、良く耳にするフレーズです。私達人間は、その障がいを克服するために社会を作り上げて来たのだということ。社会は時代とともに変化し、我々人間は変わりゆく社会に対応し、様々な工夫をして幸せに生きる術を作り替えてきたのだということ。そして、そこには血縁・地縁・友縁・職縁という4つの縁が大きく重なり合うことが重要であると気付かせて頂きました。

長谷川先生のユーモアたっぷりの口調と、笑い声あふれる会場、その雰囲気以前に聴講させて頂いたことをすぐに思い出しました。

家族に愛を注ぎ、隣人を気遣い、お互い様の精神で手と手を取り合って、共に生きる芳賀町は、きっと住みよい町となることでしょう。

第5回 芳賀町ジェンダー川柳コンクール

主催：芳賀町女性団体連絡協議会

第5回のジェンダー川柳コンクールの作品選考会を、2月3日(金)芳賀町民会館研修室において実施しました。選考は、教育委員会から1名、梨の実吟社の方2名、PTA協議会から4名ご協力いただき、本団体から3名合わせて10名で行いました。

男女共同参画社会の形成に向け青少年の理解や関心を高める趣旨に則り、秀作揃いです。ご家族でご鑑賞いただき、ジェンダーについて話すきっかけにいただけたら幸いです。



入賞作品

最優秀賞

ありがとう 家族まんぷく パパご飯 芳賀北小学校4年 黒崎 心美

優秀賞

- ・母夜勤 父が晩飯 腕ふるう
- ・ごみ当番 父がはりきり 母笑顔
- ・母仕事 家のそうじは 父とぼく
- ・男女とも 助け合うから 叶う夢
- ・ママダウン 主夫するパパも かつこいい
- ・保育園 男の先生 大歓迎
- ・伝統を 受け継ぐ者に 差別なし
- ・お互いを 認めてわかる 大切さ

芳賀南小学校5年 小林 陽翔
芳賀東小学校5年 山田 眩暈
芳賀東小学校5年 松本 拓巳
芳賀東小学校6年 星野 綾子
芳賀北小学校5年 田中 栞
芳賀中学校2年 酒井 優風
芳賀中学校3年 手塚 爽流
芳賀中学校3年 金敷 紗弥

佳作

- ・家事育児 男もできたら カッコイイ
- ・助け合う 男女がつくる 大きな輪
- ・トントンと 父の料理と 笑い声
- ・お父さん りょうりデビューは たまごやき
- ・お父さん 母に負けずに 家事育児
- ・台所 凛と立つ父 自慢の背
- ・家事分担 互いを支える 母と父

芳賀東小学校5年 橋本 悠大
芳賀東小学校5年 鈴木 和樹
芳賀北小学校4年 阿久津結衣
芳賀北小学校5年 小峰 愛莉
芳賀中学校1年 檜山 緋菜
芳賀中学校3年 船生 萌
芳賀中学校3年 大島 爽楽

表彰式



第31回公民館大会



平成29年3月11日(土)

農業者トレーニングセンター
第31回公民館大会にて

視察 野木町煉瓦窯と古河トモエ乳業

8月31日(水)

講演

2月8日(木)

野木町煉瓦窯(旧下野煉化製造会社煉瓦窯)は、正式には「ホフマン式輪窯」という。ドイツのフルドリヒ・ホフマンが1858年に発明し、16区画の環状の窯で、整形した生の煉瓦を連続焼成できる施設。明治23年(1890年)から昭和46年(1971年)まで80年間煉瓦を生産した。昭和54年(1979年)に国の重要文化財に指定され、日本に現存する4基のホフマン式輪窯のなかでも、唯一円形で完全な形を保っている貴重な産業遺産。

敷地は渡良瀬遊水池に隣接しており、煉瓦製造に最適な粘土は旧谷中村地内から、川砂は思川から採取し、渡良瀬川などの水運も利用できた。



芳賀町ひばりの会 岡田 順子

昨年8月31日朝 野木町煉瓦窯(旧下野煉化製造会社)→いちごの里「いちご一会」→古河トモエ乳業工場見学コースをバスにて出発。早朝の車内は、近況報告・情報交換の場となり雰囲気良好(^_^) 最初の見学地到着。

ホフマン窯は、赤煉瓦の大量生産に対応した窯で、日本に残る4基のうちの1基。耐震工事も済み、野木の地形・歴史を知ることでもできる町の広告塔(窯)になっています。

ランチは小山のイタリアンビュッフェ、地場の野菜が豊富・デザート充実でスイーツ好きにはたまらないお店でした。

最後にトモエ乳業・工場内は、機械化されて、少人数で重要な役目を果たし工場を機能させています。社会生活も同じ、便利になっても人の力は大切と感じました。この研修にあたりご尽力いただいた方々に感謝します。



トモエ乳業株式会社(本社:茨城県古河市)は、1956年に創業して以来、徹底した衛生管理のもと、牛乳・乳製品・乳飲料製造を行い、古河市内の学校給食をはじめ日本生活協同など多くのところに商品を提供している。



芳賀つばさの会 廣木 初江

今回の研修会に参加し、初めて野木町の煉瓦窯と古河市のトモエ乳業を見学しました。野木と言えば県の南端、中々行く機会がなく、また、野木の知人たちが「煉瓦窯を見に来て」と頑張っていたので、ここを見学地を選んでもらえてラッキーでした。

煉瓦窯は「俺の煉瓦が日本の近代化に欠かせなかった」とふんぞり返っているように感じました。施設の説明を受けながら、内部へ、上部へと進むと、この窯に石炭がくべられていたときをたやすく想像することができます。熱風が泥を乾かして優しい色に焼きあがった煉瓦の出来に、一喜一憂したことでしょう。ここで働いた多くの人の、また、出来上がった煉瓦を運搬し一つひとつ積み上げた人の、汗と歴史を覚えていてと言っているようです。煉瓦の色は温かく、しかし煉瓦窯は不思議な威厳を持っていました。

今年の2月中旬に、「ホフマン式輪窯を核とした関連文化財群」を日本遺産に申請したと発表されました。「煉瓦が薫る宿場町」をテーマとした国指定重要文化財「野木町煉瓦窯」や深谷市「誠之堂」など4県6市町の30か所です。研修参加者の皆さんも応援したい気持ちになっていることと思います。

怒りの特徴とアンガーマネジメント ～男の怒りの違い～

アンガーマネジメントって何?

アンガー(怒り・イライラ)の感情を理解し、コントロールする心理トレーニングです。認知心理学をベースにした、誰でもできる簡単な感情のセルフコントロールの方法です。1970年代のアメリカで生まれ、様々な分野で世界中にひろがっています。

日本では、子育て中の親、学校での体罰防止教育、企業内のパワハラ防止研修、スポーツのメンタルコントロールなどで取り入れられています。

4、5歳から学ぶことができるので、文科省の子ども向けの感情理解教育の推奨プログラムにもなっています。



アンガーマネジメントコンサルタント
斎藤 美華さん

宇都宮市内在住。大学では発達心理学を専攻。(財)日本総合研究所を経て、学校職員として公立小中学校にて勤務。

学校現場や家庭で感情から発生する問題行動に直面し、感情教育の必要性を感じ、アンガーマネジメントを学ぶ。

現在、研修講師として市町村団体、教員、保護者、医療職、企業へ研修を行う。

アンガーマネジメントに必要な3つのポイント

この3つを組み合わせると怒りに対処します。

6秒

衝動のコントロール



思考のコントロール



行動のコントロール



怒る理由

理想

ギャップ

現実

会社 子ども 上司
男性 女性 親
ルール 時間 その他

は、こうあるべきだ!

参加者から

- 日常生活の中で、自分の怒りのコントロールができる研修で、今後の生活に役出つ。
- 怒りについて男女の違い、また、人によっても温度差があることに気付いた。
- 男の人の怒りの単純さを知って良かった。「怒りの温度計」の活用をしたい。
- 怒りは良くないこと(悪いこと)ではないと聞いてほっとしたが、やはり、爆発しないよう、今日聞いたことを参考にしたい。



- 怒りは、自分の理想(べき)と現実のギャップにより発生するという。自分のべきを知り、共通理解を図りながら、弱い者への連鎖にならないようにしたい。
- 日常生活を見直し、これからの生き方に生かせるよう、アンガーマネジメントを身につけて実行したい。

